

## 会 議 概 要 書

審議会等の名称	第4回 ながふじ学府一体校建設検討会
担当部課名	教育部教育総務課学府一体校推進室
会議の開催日時	平成30年 2月 7日(水) 18:00~20:00
会議の開催場所	豊田支所 大会議室
出席者(職・氏名)	委員:12名 事務局等:11名(内設計者3名)
議 題	(1) 議事録の確認 (2) 第3回ワークショップの内容について (3) 第4回建設検討会提出案について (4) 質疑・意見交換
配付資料等の件名	・次第 ・第3回ワークショップの主な意見 ・第4回建設検討会提出案

### 【会議概要】

#### 1. 開会

#### 2. 教育長あいさつ

本日が基本設計で最後の検討会となる。今まで皆様方からの数多くのご意見をいただく中で、検討を重ね、変化をし、進化をしてきた。子供の動きや教師の動きが少しずつ見えてきた。いよいよ基本設計最終案となるので、色々な意見をお聞かせ願いたい。

#### 3. 議事録の確認

- ・事前配布済の議事録について修正はあるか。(会長)
- 特になし。(一同)

#### 4. 経過説明

- ・第3回ワークショップの主な意見について事務局から説明。(以下、事務局)
- ・なかふじ図書館については以下の意見が挙げられた。例えば、
- ・調べ学習スペースや自習スペースがあった方がいい。
- ・蔵書についてはベストセラーの本や郷土資料、専門書など様々な意見があった。
- ・室内の本棚や家具などについては、座り心地の良いソファや本棚間のベンチのレイアウトについての意見があった。
- ・管理、運用、セキュリティについて、開館時間や給食への安全性、こども図書館との

## 連携

- ・地域開放やコミュニティについて、読み聞かせスペースや地域利用者への本の貸し出し
- ・配置については動線の見直し、見通しの良い空間や給食通路の仕切りが必要だという意見
- ・ながふじ図書館については配置や室内レイアウト等後ほど設計者から説明してもらいますが、前回の検討会でも話題になった通り、これまで以上に地域とともにある学校を目指し、地域住民や保護者、子供、教員それぞれの立場の人、みんなが使いやすく、ほっこりとした温かな空間としたい。H30年8月に旧豊田図書館がひと・ほんの庭「にこっと」として開館となる。そちらとの連携も図りながら運用を行いたい。
- ・計画案については以下の意見があった。例えば、
- ・職員室の配置について、校長室と更衣室のレイアウトの見直し、職員室と事務室の仕切り、教員用の休憩室の設置
- ・トイレの数と配置、相談室の設置、多目的トイレの設置、防災用倉庫の設置、吹抜を利用価値のあるスペースにする。
- ・特別支援学級を学年に応じて配置、特別支援学級の数について
- ・特別教室の数の見直しや室内レイアウトの意見
- ・プールや屋内運動場に関して、プール外階段の設置、メインアリーナとサブアリーナの仕切り、キャットウォークを利用したベンチの設置、外トイレの設置
- ・地域開放エリアについては、武道館の多目的活用、ランチルームの南側配置
- ・ながふじ広場については、遊具の数や種類、多目的利用スペース など。
- ・その他、地域連携室とランチルームの名称について色々な案が出たが、これについてはもう少し時間をかけて考えることとしたい。

## 5. 第4回建設検討会提出案について

- ・設計者より基本設計最終案について説明(以下、設計者)
- ・今回の基本設計案について、前回検討会との違いを主に説明。まず配置計画について、アリーナ棟と校舎棟の離隔をとることで、構造的にも合理化を図りコストダウンにつなげた。そして先ほどワークショップの説明にも出てきたが、遊具エリアをながふじ広場に設定し、今後遊具等の計画を詰めていきたいと考えている。
- ・1階は、ながふじ図書館とランチルームの配置を反転させ、図書館が北側、ランチルームを明るい南側に配置した。それによって、ながふじストリートに面した校舎の中心として地域と共存した図書館ができる。また、エレベーターからの給食の配膳動線の整理を行った。

- ・2階は、アリーナでメインとサブを一体化していたが、それぞれを区切ることで、メイン、サブの別利用が同時可能となる等、フレキシブルに対応できる構成とした。トイレ数については、児童生徒数から考えて十分な数のトイレを洋式をベースに検討し計画に反映。なお校舎内の中央には大階段があるが、1階の昇降口の正面にながふじホールがあり、そこから両側の大階段で上に上がる構成になっている。このながふじホールの吹抜を広げることで、ながふじホールで発表などを行った際、2階からも見下ろせることができる構成とし、子供たちの発表の場をつくる計画とした。また、防災倉庫を避難の拠点になる2階アリーナのそばに配置し、スムーズに物が出し入れできるようにした。3階、4階に関しては南側に普通教室、北側に特別教室という構成は変えていないが、中央の部分にオープンスペースと両脇の階段とセットになった吹抜という形に変更。その両サイドの吹抜から自然光が下りていく中で、オープンスペースでは様々な活動ができると考えている。
- ・次にながふじ図書館の参考家具レイアウトを説明。地域利用者は、地域開放の出入口から入り、上下足の履き替えを行うことで、図書館エリアやランチルームは児童生徒と同じ上足とすることで統一した。なお、地域連携室については一部下足のまま入れるエリアを設けている。図書館の中は入ってすぐに新聞と雑誌のエリアを設け、その脇には新着の図書を配置。それから調べ学習のエリア、読み聞かせのエリア、そして自習するエリアといった配置をすることで、時間帯によって多様な使い方ができるようにした。なお、司書室を中央に設けることで、管理の目が行き届くような計画としている。
- ・続いてランチルームについて、2学年が一緒に給食が食べられるよう200席の参考レイアウトをもとに説明。なお、通常時はながふじ図書館の利用者にも考慮し、ゆとりある100席程度のレイアウトとすることで、地域の利用者だけでなく、放課後の生徒が自習したり団欒したりできるような想定とした。
- ・設計者の説明に追加して、本日柳澤教授が出席できないため、事前に意見を伺ったので報告する。設計者の説明にもあったが、検討会でながふじ図書館のレイアウト例を示してもらったらどうかという意見があり、今回提案してもらった。ながふじ図書館については、自習スペースは大テーブルではなく、1人用のテーブルなどだと使い勝手が良いのではないかという意見をいただいた。ランチルームに関しては、机を常設するといろんな使い方ができないので、可動式なものとして、多目的に利用できるようにした方が良いのではないかというご意見をいただいた。また、2階の多目的教室に関しては、豊田東小学校児童との交流スペースとしてだけでなく、外国語教室も兼ねているが、コミュニティスペースのような名称にして、多目的に使えるようにすると良いのではないかというご意見をいただいた。（事務局）

## 6. 質疑

＜ながふじ図書館とランチルームの配置(反転)について＞

- ・配布されたものは最終案ではなく、今回の議論を取り入れて変わることもあるのか。  
(委員)
  - あくまでも基本設計最終案であり、今後話し合い等で変わることも十分あり得る。  
実施設計段階にまた意見があれば、それを取り入れて変えていくことも場合によっては可能。(事務局)
- ・地域利用者の駐車スペースは別敷地の東側駐車場を利用するという想定か。(委員)
  - 東側敷地の利用を想定している。プール下駐車場は、教職員利用を予定。(事務局)
  - 身障者用駐車場を配送車駐車スペース付近につくる可能性もあるのではないか。  
(委員)
    - 図書館の上階がサブアリーナとなるが、音の影響はどうか。(委員)
    - レイアウトを変更した時点から音に関しての懸念は認識している。床のコンクリートの厚みを確保したり、図書館の天井を一度縁を切る形で構成する等いくつかの対策により、サブアリーナからの音や振動を、図書館の中に持ち込まないように計画している。(設計者)
- ・4.1万冊の本棚がこのレイアウトとなるのか。地震等で倒れることのないよう対策は確保しているのか。(委員)
  - 4.1万冊をレイアウトしたものである。本棚の転倒防止対策は、例えば床にボルト等で固定するなどを考えている。また、書架の高さも子供達が使うことを考えて、地域の図書館よりも低い150cmをメインとしてレイアウトしており、書架の重心を低くすることで転倒防止対策も兼ねている。(設計者)
- ・南側の日の当たる図書館から日が当たらない図書館に変更になったが、これは我慢することとして、子供たちが図書館を訪れるときの動線はどうか。(委員)
  - 子供たちは階段から上履きのまま降りてきて利用し、また地域の方は上履きに履き替えてもらって、司書がいるカウンター前から出入りする動線としている。(委員)
- ・南側の図書館でなくなると本が日焼けしないので済むと思う。子供は素直なので、背表紙がすすけた本は読まない。冷暖房を完備していただければいいのかなと思った。(委員)
- ・南面ではないということで採光の方法はどうなっているのか。(委員)
- ・北面と東面はガラスにして採光をし、書棚を高いものにせず見通しよくしようと考えている。真ん中に司書室があるが、その配置についても御意見をいただきたい。(委員)
- ・司書室に光も入った方が良く。司書から図書室全体が見渡せる場所であってほしいの

で、司書室を北側の角に作るのはどうか。(委員)

- ・セキュリティ面を考えると、この場所にあった方がいい。(委員)
- ・司書室をトイレ側にもってくると都合の悪いことはあるか。(委員)
- ・トイレ側についても閉架という機能は果たすことができる。受付機能やセキュリティを含めてその他にも意見をいただけたらと思う。(事務局)
- ・MR(マシンルーム)は移動できないのか(委員)
- ・MR の位置は図書館のレイアウトを良くしていくことを前提とし、今後場所を決めていきたい。(委員)
- ・全体が管理できれば今の司書室の位置はいいと思う。司書室からは全体が見渡せるようになるのか。(委員)
- ・司書室に窓をつけることで見渡すということは可能になる。(設計者)
- ・司書室の場所はここでよいが、出入口が1か所であるのは手狭ではないか。西側に入り口があるとよいのではないか。避難のことを考えても2つあった方がよいのではないか。(委員)
- ・全体を見渡すという意味ではやはり北側にあった方がよいのではないか。(委員)
- ・採光部分に司書室をもっていくのはどうかと思う。(委員)
- ・北側を司書室にした場合、チェック機能という面から考えると入り口から遠くなってしまうのではないか。この司書室は、児童生徒の学びの部屋とベストセラーのところとの仕切りになっていると思う。(委員)
- 司書室の位置については、図書館に入ってすぐカウンターがあり、その裏に事務室があるというのが普通の図書館の考え方である。今回の図書館に関しても、どのような人が入ってくるかを認識するために、受付そのものがこれくらいの位置にあった方がいいのではないか。一方で、この司書室の形が入口から見て、北側の角まで見通せないような作りになっているので、こちらを再検討する必要がある。また、この図書館がながふじストリートから見えて、豊かな採光がとれるということも重視したいので、今まで頂いた意見を参考にしながらより良くできる計画を検討していきたいと考えている。出入口が1か所については、設計側としては2か所あっても外部からの入口があっても構わないが、問題は管理する方の考え方にある。入口があればあるほど、セキュリティの問題や人件費がかかるという問題があるので、その辺のバランスを考えて設計をしていくのがセオリーだと思っている。(設計者)
- ・皆さんの意見をまとめると、司書室については、今回の提案の場所でいいのかと思う。(委員)
- ・入り口については、蛇腹のようなものを使い、昼休みや放課後子どもたちがたくさん来る時には広げられるようにしたらどうか。避難口として正規の出入り口以外に外か

らは入れないが、中からは出られるようにすることは可能か。(委員)

・図面上の二か所ある一点鎖線部分はアコーディオンドアのように開放できるように設計している為、人の出入りが多くなる時間等は出入口を広くする等、多目的に対応可能。また今後、東面や北面への避難経路確保も含めて検討していきたい。(事務局)

・ながふじ広場とながふじ図書館が近くなったことで少し心配になったのが、放課後の中学生の自習エリアについてである。レイアウトを見ると窓際が自習スペースとなると思うが、ガラスの場合、外で他の子供たちが遊ぶ声や、姿によって、集中できないか。(委員)

➤子供たちが集中できるかということだが、放課後は調べ学習スペースも使えるので、自分で好きなところを使ってもらえればと思う。今後問題があるようだったら北側に学習スペースを持っていくということも考えられる。(事務局)

➤放課後、ランチルームも開放することになれば地域の方や他校の生徒とも交流を持てると思うので、話す場所と静かにする場所とでうまく住み分け出来るのではないか。(委員)

・ランチルームは自習室としても使えるのか。(委員)

・ランチルームの多目的利用について、例えば地域の人たちや豊田東小学校の児童が来て給食を一緒に食べるとか、学年集会で使うとか、発表会で使うとか、地域の方々の会合で使ってもらってもよいし、自習スペースとして放課後は使ったりもできるので、本当に多目的に利用できると思っている。(事務局)

・第1回目の討論からは、ながふじ図書館とランチルームの場所の配置が大きく変わったので、本日は配置について承認をいただいて、ながふじ図書館の中のレイアウトに関しては、司書室の位置など含めて詳細設計にて詰めていくということでまとめようと思うが、よろしいか。(委員)

➤一同承認。

#### <その他の計画案について>

・青春の塔は東門の入口付近に移してはどうか。(委員)

➤現時点ではながふじ広場付近として今の場所に設置予定をしている。今後運動場の使い方等を考慮した上で、最善の場所に設置したいと考えている。(事務局)

・青春の塔は既存移設か、新たにつくり直す予定か。(委員)

➤思い入れのあるものだと思うので継承していく予定。既存移設か、新設かについては決まっていないが、意見をもとに進めていきたい。(事務局)

・屋外プールへの屋根設置は予定していないか。(委員)

➤屋根は無としているが、日除けスペースを一部確保している。(事務局)

- ・豊田東小学校の児童との交流について、外国語教室や運動場での合同練習などで来校するが、スクールバス等含めた動線はどう考えているか。(委員)
  - スクールバスは、車両門から入った駐車場に止められるし、東門や西門から入って昇降口に寄せて乗り降りできるスペースにも止められる。計画上は臨機応変に対応できるようにしている。(事務局)
- ・給食の配膳動線について、共同調理場から1年生の教室へはどのように運ぶのか。(委員)
  - 動線については、流しの前を通る、もしくはランチルームを経由等が考えられるが、動線の整理については引き続き検討を進めていく。(設計者)
- ・トイレについては前回の検討会で数が少ないという指摘があったため、今回改善された。ながふじホールからの吹抜の階段も有効利用できるようにオープンスペース等をつくっていてよいと思う。(委員)
- ・流しの数が足りないように感じるが、廊下に面して作る必要はないか。(委員)
  - トイレの中にも流しがあるが、これはあくまでトイレの後の手洗い用であり、トイレの前にある流しは、水を飲んだり、図工など授業の際に手を洗ったり、給食前の手洗い、掃除等の流しとして計画している。設置数は、既存施設を調査した結果、1クラス当たり約4～5口が現状の設置数であるため、それを参考として数を決めている。(設計者)
- ・応接室について、小中それぞれではなく、合同で利用ということか。(委員)
  - 壁で区画した応接室を作るとスペース的にもったいない。職員室・事務室が広いので、その中に打合せスペース的に作るのも有りではないか。(委員)
  - 今後、教員ヒヤリング等を重ね、職員室内のレイアウト等を詰めていきたい。(事務局)
  - プライバシーを重視するようであれば、2階以上の各階にある相談室の利用も可能。(設計者)
  - 応接室を単独で作らず、校長室の中に応接スペースを設けた方がよい。(委員)
  - 地域の方が来た時には、地域連携室を使うということであれば応接室はいらないかもしれない。(委員)
  - ながふじ図書館とランチルーム、地域連携室がこれからコミュニティ・スクールを進める上での核になる。コミュニティ・スクール・ディレクターが地域連携室に常駐するようになるのだと思う。そういう意味でも、学校の中に地域連携室が存在する価値が出てくると思う。(委員)
  - 応接室設置の可否については、詳細設計で決めていきたい。(事務局)
- ・音楽室が最上階になったのは、音の問題等もあるので良かったと思う。なお、2階の

多目的教室兼外国語教室は豊田東小学校との交流スペースにもなっているが、外国語教室というからには、大きな声で外国語の歌を歌ったり、話したりすることがあると思うが、それにおける見解はいかがか。(委員)

➤建築面では吸音ボードを採用したり、配置を工夫したりして検討を進めていく。(事務局)

➤今回の設計上最大の特徴は空調があることであるが、このおかげで教室を密閉していても授業が可能な為、今までのような騒音による問題はないのではないかと考えている。(委員)

・アリーナをメイン・サブと広く計画しているので、4クラス程度が同時に授業が可能と考えられ、支障がなく進められそうであり、その点は良いのではないか。(委員)

➤アリーナは器具庫含めて広く作ってもらえているといった印象がある。(委員)

・1年生から9年生までが一つの校舎で生活しているという意識を子どもも教師ももつことが大事である。運動場にしても教室にしても、小学生だけとか中学生だけとか限定するのではなく、どこも使えるというように子どもも教師も思うようにすることが大切である。(委員)

・教職員用のトイレ数が少ないような気がするが、来客用のトイレと兼用か。(委員)

➤教職員用のトイレは来客用と兼用と考えている。レイアウトについてはまだ詰めていないが、女性用トイレは3ブース程度としている。今後実施設計にて見直す予定。(事務局)

・管理区画についてだが、1階と2階で止まる階段と2階から4階へ行く階段を分けているということも工夫されている。1階のながふじ図書館、地域連携室、ランチルーム、武道場、2階のアリーナとプールが地域開放スペースとして使えるようになるのかなと思う。管理ゾーンとの区画が工夫されていて大変いい案になっていると思う。(委員)

・子供たちの避難経路について、説明して欲しい。3・4階からの高学年と2階の低学年が一緒になり、もたつくのではないか。(委員)

➤内部は図面上の通り、3ヶ所の階段で避難する計画としている。万一不審者が侵入した場合の経路は、上階についてはバルコニーを經由し教室から逃げる避難を想定している。なお、避難器具の設置も予定。2階についてはメイン、サブアリーナの外階段からも避難可能。(設計者)

・階段は、もともと二つしかなかったが、一つ西側に増やした。開校後の児童生徒の避難訓練で、どのように避難するかを子供たちにも知らせていきたいと思う。(事務局)

・話の内容としては、以上でまとまってきたかと思う。今回の基本設計をもとに、来年度実施設計を進めていくということによろしいか。(委員)



➤一同承認。

7. 今後のスケジュールについて

- ・第一回目にも渡しているスケジュールだが、それをさらに現時点で修正したものである。次年度以降に教員ヒヤリング等を行い、設計を進めていく予定。予定通り平成33年の開校を目指し、平成31年から32年にかけて建設工事を行う。既存プールは平成31年に解体工事を進めていく。グラウンドは平成31年の夏より工事が始まり、3年間代替グラウンドを利用する。
- ・今回で検討会は終了となるが、今後も皆さんより広くご意見をいただきながら進めていきたいので、ご協力をお願いしたい。今回の基本設計についても皆さんで作っていただいたので、かわら版等にして皆さまに配布予定。今後は建設工事が始まる前に説明会を実施したり、開校前には開校に関する説明会を開催したり、周知徹底を図っていく。ながふじ学府開校準備関係としては、今年度4回校長会を開催した。来年度以降はそこを掘り下げて教頭会や教育課程部会、生徒指導部会、研究部会を立ち上げ、学校協議会と連携を取っていくことで進めていく予定である。（事務局）

8. 閉会のあいさつ（事務局）